

## 令和4年度総合計画審議会 議事録

日時：11月14日（月）13時～15時

場所：総社市西庁舎3階301会議室

出席者：総合計画審議会委員18名

総社市長 片岡 聡一

総合政策部 部長 脇 奈七，次長 江口 真弓

政策調整課 課長補佐 岡本 紀子，課長補佐 前原 夕美子，

主事 福島 大介，主事 松岡 亜美

欠席者：総合計画審議会委員4名

### ○事務局

ただいまから「令和4年度総合計画審議会」を開催いたします。

皆様，本日はお忙しい中，お集まりいただきましてありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます，政策調整課の前原と申します。どうぞよろしくお願いたします。

今年度は，総合計画審議会の委員の任期が，令和4年10月28日までで満了しておりますので，今回から，新たな任期での第1回目の審議会となります。皆様，大変お忙しい中，委員をご承諾いただきまして，誠にありがとうございます。お手元に委嘱状をお配りしておりますので，令和6年10月28日の任期まで，どうぞよろしくお願いたします。

それでは，次第に従いまして，片岡聡一総社市長がごあいさつ申し上げます。

### ○市長

皆様，今日はありがとうございます。総社市民のために，それぞれの団体でお世話いただいておりますことに，厚く感謝申し上げます。

今日は，第2次総社市総合計画の後期基本計画の改訂案を皆さんにお示しするというので，同意を得て進めていこうとするものでありますが，ちょっと耳を貸していただきたいことがあります。

今は脇さんが部長でやってくれています。彼女は，内閣府から来て3年目で非常に優秀な官僚であります。総社を知らないところから猛烈に勉強して急速に総社のことを理解してくれています。外部ウォッチってというのはものすごく大事なことで

気づかされる点も非常に多々ありますから、我々にとっては、すごく新鮮で貴重な戦力だと思います。

その彼女が知らないことがいくつかあるのですが、そもそもこの総合計画というのは、私が市長になる前、それからになってからの当初、というのは業者に委託製作をしてもらっていたのです。全国どこの市もほとんどそうです。業者がその市の総合計画を作るんですよ。

見てみると、どこの市もこれが総社市総合計画でなくとも隣の高梁市総合計画という本の表紙に変わっても何らおかしくはない。緑あふれる自由な街とか、温かい総社市とかそういうことで、どんな条例を作ろうがどんな規則を作ろうが、これを拡大解釈すれば当てはまるよねという広範な範囲を具備するものだけど、だからゆえにそれを紐解いてみたりする職員はほとんどいないんです。だから規則がための規則。まあどうでもよかったということです。

それで私が市長になってこの総合計画を私の手で初めて作るときに職員さんにお願いをしたことがあります。「業者に頼むのはもうやめる。」と。頼むと700万かかる。手仕で、藁半紙でいいからとりあえず作ろうと言ったら、そのときの総務部長さんに「無理です。職員にそんなことができるはずがありません。無理です。」と言われました。

だけど、「不完全なものでいいから自分の手で作りましょう。」というわけで、できたのが今の第2次総合計画です。あるときから職員の手垢に染まった努力の結晶になっていったわけです。だからこそ実りがあるし、だからこそ紐解いてみるし、だからこそ弱いところに手が入っているし、だからこそそれを見ないと条例を改正できないという代物に変わったわけです。

概ね前期5年、後期5年の10年間のバイブルで、こういうふうにところどころで直しをするというのはご法度で、1回作ったらそれっきり10年というのが世の常だったんですが、我々は時代の対応をやっていこうということで、ここを直したいということを皆様方にお示しして了解を得て、協議の末、総社市の未来を作っていこうという会議にしたいと思い、今日お集まりをいただいているわけです。

そこで、大いなるテーマというのがあります。これは皆さんと私は共有しなければならない事実ではありますが、とうとう総社市の人口が減り始めました。

今までは、岡山県27市町村の中で増えているのが早島町、里庄町、総社市。岡山市、倉敷市ももはや撃沈状態で、減少に歯止めがかからない。市の中で増えているのは、総社市だけと言って脚光を浴びてきました。正確に言うと脚光を浴び始めたのは平成23年以降のことです。

ウイングバレイの方もいらっしゃいますけれども、平成21,22年はリーマン・ショックの直撃を受けたのが総社市です。その当時有効求人倍率が0.29です。いわゆる100人の求めに対して29人しか就職ができない社会。これが総社市は、県下ワースト1でした。その中で障がい者雇用をスタートさせたわけです。

「健常者が就職できないのに、なぜ障がい者なんですか。」と言って、風早さんと会長とコンビで1,000人を目指そうと。そうしたら人口増えたじゃないですか。そしたら障がい者や弱者が転入してきた。

そこから人口が増え始めて23年～27年と人口が昇り始めて令和元年、2年、過去最高を記録して69,904人までいきました。ちょうど去年の今頃だと思えますが、そこから200人減りました。この現象をどう見るかです。

これは気休めの言え、総社市内の企業が、総社市中原の工場から熟練ベトナム人の212人を京都に作った新しい工場に移転させています。徐々に戻ってくるはずです。来年の4月頃までにもう100人程度ベトナム人は戻ってきますよ。というから、来年4月には相殺すると、他の移動が全くないのかと仮想すれば、人口が100人減で済むかもしれませんけれども、私はそうは思わないんです。

一過性ではない、これからどんどん減っていくスパイラルの最初の1ページだというふうに見るべきだと思っています。ここで食い止めなければ、下落の階段を転げ落ちていく。その覚悟を持たなければいけないということなんです。

日本全国815市ありますけども、大都会を除いてほぼ減少しています。だけど、そのそれぞれの市に減少し始めた日、あるいは減少し始めたきっかけ、そういうものがあつたはずなのに、どの市もそれに対して無策だった。見逃してしまっていた。気がついたときには、もう上昇気流には上げられない。その時点で初めて世の中のせいにした。日本全国そうだから私もしようがないねということで済ましてきた。

だけど、我々はこの総合計画、その後期の改訂を巡って減らさない、増やしていく。その政策を積み重ねていかざるを得ない。これにクイックにレスポンスするために皆様方のお力をお貸し願いたいと思います。

今、年収も人口も大ピンチ。こっちに座ってくれているうちの各部長さんも、死ぬ気で頑張る、できることは全部やるという気持ちでこれからやっていくという会議にしたいと思いますので、ご協力方よろしく願いをいたします。どうもありがとうございます。

## ○事務局

ありがとうございました。

次に次第の2，会長，副会長の選任を行います。

会長，副会長の選任は，総合計画審議会条例第5条第2項により委員から互選することとなっておりますが，いかがいたしましょうか？

○風早会長

事務局案があればご提案ください。

○事務局

事務局としましては，会長を総社商工会議所の清水会頭，副会長を子ども・子育て会議の近藤会長にお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか？

○委員一同

拍手

○事務局

それでは，会長は清水様，副会長は近藤様にお願いいたします。清水様，近藤様は前方の会長席・副会長席へ御移動ください。それでは，会長に就任された清水様，副会長に就任された近藤様は就任のあいさつをお願いいたします。

○清水会長

引き続き会長ということですので誠心誠意尽くして参りたいと思います。

さて，現代というのは，BCPというのはもう何十年かやっているんですけど，大変思わぬ災害が起こるとい時代です。

その中で南海トラフ地震というのは，前例が南海トラフと琉球海溝と同時に破壊しているので，想像を絶するような被害が出る可能性があります。前回から2,000年経っているということで，そのような災害が起こったときにどのように対処したか，ということも重要と思っております。

この審議会につきましては，報告会2年目ということで，結果の中で示したものとして，また1年に一度の集まりですので，皆さんの方から何かそれに対しての意見はもちろんですが，思うことや提案することがありましたら，全員に喋っていただくと思っております。

今まで出られた方はわかっていると思いますが，会議につきまして，スムーズに審議が進むようよろしくお願いします。閉会の時間は，15時ぐらいを目処にしておりますので，どうぞご協力よろしくお願いします。ありがとうございます。

○近藤副会長

失礼いたします。子ども・子育て会議の会長をしております近藤理恵と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今、市長様から人口が少し停滞気味ということを知り、ずっと人口が増え続けていると思っていたので、衝撃を受けております。皆様とは、市民が生き生きと暮らせるようなまちづくりをしていきたいと思っておりますので、至らない点があるかと思っておりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

ありがとうございました。続きまして、今年度、初めて7名の方が委員として出席していただけますので、お一人ずつ自己紹介をお願いしたいと思います。

○婦人協議会 勘藤副会長

婦人協議会から来ました勘藤でございます。

高見会長が年をとられているので代理で来させていただきました。初めてのことでですのでよろしくお願いいたします。

○コミュニティ地域づくり協議会 難波会長

コミュニティ地域づくり協議会から参りました難波哲生と申します。

前任が平松会長でありまして、大変立派な方でしたので、荷が重いなと思いつつ、させていただいております。コミュニティの出身母体は、一番小さな組織で維新小学校区地域づくり協議会の会長をやっております。よろしくお願いいたします。

○校長会 高杉会長

失礼します。総社小学校の高杉と申します。

総社市校長会の方から出席させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

○総社吉備路商工会 栢原会長

皆さんこんにちは、初めまして。総社吉備路商工会の栢原です。できるだけ頑張っていると考えていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○PTA連合協議会会長 中田会長

はじめまして。お世話になっております。PTA連合協議会会長をさせていただきます中田と申します。保護者目線でしか言えないことも多いかと思うんですが、お手伝いできたらと思っております。

また、昭和中学校会長もさせていただきます。義務教育学校や五つ星学園では大変お世話になっております。いつもどうもありがとうございます。

○総社青年会議所 三海理事長

一般社団法人総社青年会議所の理事長を務めております、三海と申します。よろしく申し上げます。

総社青年会議所としてもまちづくりに関しましては、大きな柱でもありますので、しっかり総合計画の方も考えさせていただこうと思っておりますよろしく申し上げます。

○山陽新聞社倉敷本社常務取締役 佐々木代表

山陽新聞社の佐々木でございます。よろしくお願いいいたします。

地域のメディアの代表ということで出させていただきます。よろしく申し上げます。

○事務局

それでは、次第に従いまして進めさせていただきます。

今年度は、後期基本計画が始動して2年目の年となりまして、5つの基本目標のうち「だれもが安心して住みたくなる総社」と「だれもが安心して学びたくなる総社」の中に新規事業の追加等変更する必要が生じたため、令和4年度改訂案をお示しいたします。

また、PDCAサイクルの一環として、施策を評価・検証する目的で実施した市民満足度調査の結果や重要業績評価指数（KPI）の進捗状況を報告させていただきます。

それでは、ここからの議事進行は、会長にお願いいたします。

○議長

それではご指名をいただきましたので僭越ではございますが、ここからは私が議長を務めさせていただきます。皆様のご協力をよろしく申し上げます。

それでは、次第の4、報告事項①の第2次総社市総合計画後期基本計画の改訂につきまして事務局から説明をお願いします。

#### ○事務局

それでは事務局の方から説明をさせていただきます。政策調整課長の江口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第の4、報告事項①「総社市総合計画 後期基本計画 令和4年度改訂案について説明をさせていただきますので、資料①をご覧ください。

この度の改訂は、後期基本計画がスタートしました令和3年度以降、予算措置を行うなどして事業化された施策や、設置に向けた検討がスタートしている重点施策を基本計画に明記し、位置づけることで、基本構想実現に向けた政策として計画的に実施していこうとするものでございます。

改訂内容ですが、「基本目標1だれもが安心して住みたくなる総社」の「1一人ひとりの人生をサポートする」という項目の中に【01子育て～子育てに安心と希望が持てるまち】という項目がありますが、その内の「●支援が必要な家庭と子どもを応援」する施策として新たに「・ヤングケアラーやその家庭への支援」を追加するものでございます。

「ヤングケアラー」とは、本来、大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことですが、市としましては、令和3年9月9日に「ケアラー支援の推進に関する条例」を制定し、中でも18歳未満のヤングケアラーが孤立することなく、子どもらしく成長できるよう、ヤングケアラーコーディネーターを設置するなど、支援に取り組んでいるところでございます。

次に、「基本項目3だれもが安心して学びたくなる総社」の中の【01学校・幼児教育～誰もが行きたくなる学校をつくる】という項目の中の「●特色ある学校づくり」を「●特色ある学校・園づくり」に「園」という文言を追加します。そして、その項目の中に、新たに「・給食開始による幼稚園の魅力化の推進」と「・夜間中学の設置を検討」を追加するものです。

これは、市内にある全幼稚園16園で給食を実施し、幼稚園の魅力化を推進し、待機児童の解消を図るものでございます。そして、様々な事情により義務教育未修了の方などが義務教育段階の学習をすることができる公立の夜間中学校について、ニーズ調査を実施し、ニーズに応じた設置の検討を行うものです。

次に、新たに「●人口減少地域の教育の充実」という項目を追加いたします。そしてその中に新たに「・人口減少地域の学校における特色ある教育の推進」と「・幼稚園併設型義務教育学校の設置と教育活動の充実」を追加するものです。

これは、先ほど市長がおっしゃられましたように人口減少が進んでいる地域がございます。そういった人口減少地域の学校に特色を持たせ、児童・生徒数の増加等に取り組むもの。そして、特に少子化・人口減少が進んでいる昭和・維新地区にある、昭和中学校・昭和小学校・昭和幼稚園・維新小学校・維新幼稚園の5つを再編成し、幼稚園併設型の義務教育学校を設立し、幼稚園から中学校までの12年間の一貫教育を行う検討を進めているものでございます。

また、「●教育特区で学びの質を高める」という項目にありました施策の「・教育特区による魅力ある教育の実践」を先ほど追加しました、「●人口減少地域の教育の充実」の項目へ分類を変更いたします。それに伴い、「●教育特区で学びの質を高める」という項目と、その中にありました「・幼稚園、小学校、中学校で一貫した英語教育の実施」と、「・豊かなコミュニケーション能力と国際的視野を持った人材の育成」の文言を削除いたします。

これらの削除となるものについては、実施をしなくなるものではなく、先ほど分類を変更いたしました「教育特区による魅力ある教育の実践」という施策に包含しており、これまでどおり英語特区となっている学校・園において継続して実施されるものでございます。

次に、【02家庭・地域教育～家庭や地域の学びを応援】の項目に、新たに「・部活動の地域移行の推進」を追加いたします。

これは、これまで教師が指導を担っていた中学校の部活動を令和7年度末を目途に「休日の部活動から段階的に地域移行していく」との方針が国から出されていることから、市では、いち早く準備委員会を立ち上げ、指導者の人材確保など、検討を進めているものです。

次は、【03スポーツ・文化・生涯学習～生涯学び、スポーツする】の項目の中の「●生涯学ぶ」に、「・「学び直し」の推進」を追加いたします。

これは、先ほどありました「夜間中学の設置」とも関係していますが、様々な事情により十分な教育を受けられなかった方などが学習できる場として、令和4年6月30日から、毎週木曜日、常盤第2分館で「そうじゃ『夜間中・学びの教室』」を開校しています。この「夜間中・学びの教室」は、学校教育としての学びの場である夜間中学とは違い、中学校の卒業資格は得られないことや、指導者は教員免許状をもっていなくてもよい等、生涯学習としての学びの場と位置付けております。

基本計画の改訂についての説明は以上でございます。

#### ○議長

改訂につきましては、私の聞きましたところ、いくつかはもう実際市が取り組んでいるというようなことであります。その中で市議会の方から取り組んでいるのなら、総合計画に入れるべきではないかのご提案等ありまして、併せてこれからするもの、それから今までしているものを合わせて、この後期計画の中に入れたいということが趣旨でございます。

私の聞いたところで夜間中学の設置については、県外では香川県三豊市で設置されており、岡山県では今後、岡山市が令和7年ごろにする予定というようなことです。

それから「教育特区による魅力ある教育の実践」につきましては、英語だけじゃなくて他の体育とか、音楽等についてもということです。

「人口減少地域の学校における特色ある教育の推進」については、美袋地区では英語特区としてやっていて、住民からは、総社市は素晴らしい、意識が高くなったというようなことがあって、やっぱり神在小、西小、秦小などの他の人口減少地域についてもこういうものを追加し、検討していくということです。それから「幼稚園の併設型義務教育学校の設置と教育活動の充実」については、これは昭和中等の昭和地区での一括ということでもあります。

その後につきましては、結構、部活動の地域の推進につきましては、国とか県の方がやはり教員の負担を考えて、東京の方では教員がたくさん志望するんですけど、地方では大変忙しいので教員が不足しているというようなこと、それからまた学び直しの推進については、常盤第2分館で現在外国人の方も含めてこれは十数人ほど参加しているということです。

今日は議題も多いですので、全員皆さんにお話していただきたいので、まずはこのことについてご理解いただきまして、次に報告事項②－（１）市民満足度調査、それから（２）重要業績評価指数につきまして事務局からいただきまして、一括して皆様からご意見、またあわせてご要望等ございましたらいただきたいと思っております。事務局説明願います。

#### ○事務局

次に報告事項②の（１）市民満足度調査結果について、ご説明いたします。資料の②をご覧ください。この市民満足度調査は、総合計画の基本目標や重要施策の評価を確認するため、毎年行っているものでございます。

調査の概要ですが、1ページ目をご覧ください。令和4年5月27日から6月30日までの約1か月間、18歳から75歳までの男女2,000人を対象に実施しました。有効回答数は1,266人 回答率は63.3%でした。参考までに昨年度の調査は、回答数1,141人 回答率57.1%でしたので、125人、6.2%の増加となっております。

また、この度のアンケートから変更した点ですが、「満足度」の回答選択肢について、昨年度は「わからない」という選択肢がありました。が、「どちらともいえない」という選択肢との違いを判別しやすいよう、「全く知らない」という選択肢に変更しました。

2ページ目から4ページ目は、回答者の属性でございますが約3割の方が総社市内に就学か勤務されており、自家用車利用の方が6割以上となっております。また、居住年数は10年以上の方が約8割を占めております。

次に、5ページは、総社市への愛着度・居住意向についてでございます。「とても愛着を感じている」と回答された方が34.5%、「どちらかという愛着を感じている」が47.2%、あわせて81.7%の方が愛着を感じていると回答しています。昨年度は81.3%でしたので、ほぼ横ばいとなっております。また、これからも総社市に住みたいかとの問いでは、「住みたい」「どちらかといえば住みたい」とした方が85.0%となっており、昨年度は86.7%だったので微減しました。

次に6ページですが、「住みたい理由」と回答した理由で、「買い物や市内の移動など日常生活が便利だから」「住み慣れた家・土地だから」が約半数を占めています。逆に「住みたくない理由」は、「買い物や市内の移動など日常生活の不便さ」「交通の便の悪さ」が多くなっています。

7ページは、総社市政への関心についてです。「おおいに関心がある」が12.7%、「まあまあ関心がある」が44.9%で、計57.6%が市政に関心をもってくださっております。また、生活に必要な地域の情報を得る手段といたしましては、「広報そうじゃ」が74.3%と圧倒的に多くなっています。

8ページをお開きください。市政に市民の意見が反映されていると思うかとの問いに、45.1%が反映されていると回答しています。

次の「市役所に特に力を入れてほしい施策の分野」では、「子育て、健康・医療、高齢者福祉、障がい者・児支援、ひきこもり支援」が最も多く、45.9%となっております。

9ページ以降は、行政施策ごとの満足度です。時間の都合により概要を説明させていただきますと選択肢の「満足している」「どちらかといえば満足している」高評価だった割合が高かった施策の最も高いのは「感染症対策」で70.7%（15ペー

ジ)です。ワクチンの集団接種が他市に比べて迅速に実施できたことや、SNS等を活用したきめ細やかな情報発信などが評価されたのではと思っております。

2番目に高かったのは、21ページにございます「観光」で55.3%、その次に高いのは「健康・医療の検診の受診体制」が52.5%で高かったです。こちらはセット検診の充実や土日の開催、地区の分館や公民館等での実施、WEB予約が可能といったことが評価されたのではと考えています。昨年度の調査の高評価ベスト10と今年度のベスト10に大きな変動はございませんでした。「魅力発信」や「防災・減災・消防に関する施策全般」も満足度が高い状況にございました。

一方で、「不満である」「どちらかといえば不満である」と回答した、マイナス評価だった施策ですが、率が高かった施策は、13ページにございます「公共交通の利便性の向上」が21.5%で、昨年度も最も不満を感じている率が高い施策でした。次に高かったのは11ページにございます「医療体制の充実」が18.9%、次に「都市基盤の整備 道路などの整備」が15.1%という結果でした。こちらも昨年度の上位の施策とほとんど変わっておりません。「主体的な土地利用の促進」や「デジタル化の推進」といった施策も不満を感じている人の率が高めとなっています。これらの不満を感じている人の割合が高かった施策については、その結果を真摯に受け止め、改善策等を検討してまいります。

その他、「全く知らない」と回答した割合が高かった施策は、10ページの「子ども虐待ゼロのまちの実現」で43.7%、次に多かったのは「ひきこもり支援」で43.6%、その次が「優良農地の確保」で40.2%、「支援が必要な家庭と子どもを応援」子どもの貧困対策などは40.0%となっています。これらは昨年度も「わからない」と回答した率が高かった施策でございます。今後もこういった施策につきましては、より一層、広報紙やSNSなどを活用し、こういった支援を行っているのかなど周知を図る必要があるかと考えております。

次に資料③をご覧ください。こちらは、問7で記述式で回答していただいたものです。特に市役所に力を入れてほしい施策を選んだ分野の理由です。主なものをまとめております。時間の都合上、全部読み上げることはいたしません。主なものを申し上げますと、「子育て」を選んだ方ですと「子育て王国そうじゃをととても期待している」、「健康・医療」分野では「医療機関が充実していると安心するし、自分も将来ここに住み続けたいと思うから」、「高齢者福祉」を選んだ方ですと「高齢社会に強い町づくりを望んでいる」、「障がい者・児福祉」分野では「障がい者が生活していくうえでのトータルサポートができるよう支援の充実を望む」、「ひきこもり支援」分野では「子どもが仕事をしていないので困っている」、「住宅・

都市基盤・公共交通など」分野では「高齢化が進むにつれて、生活の為に雪舟くんは、安く便利だが使い難い」，「防災・減災・消防」分野では「西日本豪雨の教訓を生かした災害対策の必要性を感じる」，「防犯・交通安全・消費者保護」では「交通事故のない道路整備をお願いしたい」，「感染症対策」分野では「コロナの感染対策等が早め，早めに実施されている」，「雇用」分野では「仕事は生活の基盤であると考える」，「学校・幼児教育」分野では「人をつくるのは教育だと思う」，「スポーツ・文化・生涯学習」分野では「もっとワクワクするような魅力的な図書館になれば，もっと利用したい」，「観光」分野では「SNSやメディアでの発信をがんばっており，観光客を増やすことで経済も潤ってくると思う」といったご意見がございました。

次に資料の④は，「市政に対するご意見・ご提案」の記述式でいただいたものをまとめております。こちらも時間の都合で説明を省略させていただきますが，いただきました貴重なご意見・ご提案はすべて，全庁で共有しております。各施策への反映など検討してまいります。

次に資料の⑤をご覧ください。こちらは，今年度初めて集計したのですが，先ほど説明いたしましたアンケートの回答を，居住地区別と年代別にクロス集計したものでございます。回答者数の少ない地区や年代がありますので，あくまでも参考程度の結果となります。

グラフがたくさん表示された資料となっており，時間の都合で設問ごとの説明は省略させていただきますが，この資料の見方としては，設問ごとに左側は居住地区別と右側は，年代別の集計グラフを表示しています。その中で，特に特徴がある結果となっているグラフを赤線の枠で囲んでいます。

少し紹介しますと，「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した割合が高かった「健康・医療の検診の受診体制」は全体では52.5%でしたが，総社中央小学校区では40.3%と全体より12.2%低くなっています。また，「防災・減災・消防に関する施策全般」41ページですが，全体の満足度は47.5%ですが，新本小学校区は20.7%と26.8%も低くなっています。

また，「不満である」「どちらかといえば不満」と回答した割合が高かった「公共交通の利便性の向上」31ページにございますが，全体で21.5%だったのですが，池田小学校区では42.3%と20.8%より不満度が高くなっています。また，33ページの「都市基盤の整備 道路などの整備」ですが全体で15.1%が不満となっていました。総社西小学校区では23.9%と8.8%高くなっています。この資料で把握で

きた地域別や年代別の傾向は、施策を考える上での参考にさせていただければと思います。

それでは、資料の⑥ですが、こちらを初めて実施いたしました。昨年度の審議会で、アンケートの対象に外国人市民が入っていないとのご指摘がありましたので「外国人市民を対象にしたアンケート」を実施しました。

1ページをご覧ください。調査対象者数は40人で、人権・まちづくり課の外国語のできる職員が聞き取るかたちで実施をいたしました。

2, 3ページをお開きください。回答者の属性は、30歳未満の方が45%を占めており、国籍はベトナムの方が30%、在留資格は技能実習が36.6%、永住者が34.1%、職業は70%が製造業を占めております。

4ページですが、居住年数は5年未満が70%を占めており、家族と同居している方が45.2%と多くなっています。

5ページですが、92.5%の方が総社市へ愛着を感じていただいております。

57.5%がこれからも総社市へ住みたいと回答していただいております。

6ページは、総社市の良いところですが、「買い物や市内の移動など日常生活が便利」という回答が最も多く、逆に総社市の悪いところは、「日本人との交流が少ない」が57.5%と多くなっています。

7ページですが、生活に必要な情報は「SNSサービス」から得る方が77.5%で、「祭り・イベント」の情報を必要とされている方が多くなっています。

また、8ページですが、日常生活での悩みは、「言葉の伝達」や「日本語の理解」といったコミュニケーションに関する項目の数値が高くなっております。市役所に力を入れてほしい取組みは、「日本人に対し多文化共生や国際理解を勉強してもらう」が37.5%と高く、外国人市民と日本人が交流を深められる機会を増やしていく必要があるということが分かる結果となりました。

市民満足度調査結果の報告は以上でございます。

引続き、(2)重要業績評価指数(KPI)の進捗状況を説明させていただきます。

資料⑦をご覧ください。令和3年度確定値(実績値)の達成率を表の一番右の欄に示しております。全体的には達成率が100%以上となった項目(◎)は、昨年度より5項目増えております。また、49.9%以下(△△)であった項目は、昨年度より3項目減っています。昨年度と同様に、コロナの影響で事業が実施できなかったなどで達成率が低くなっている項目が多くあります。

1項目ごとの説明は省かせていただきますが、特に重要な項目としては、1ページの一番上の「基本目標」であります「人口増加数」が、128人の減少となってしまいました。市長のごあいさつにありましたように、この状況を一過性のものと捉えず、危機感をもって対策を講じてまいりたいと思います。

一方で、3ページ目の「だれもが安心して働きたくなる総社」の基本目標である「市内事業所の従業者数」が25,748人となりまして、5年前の経済センサス調査時から2,638人増加しました。あわせて、表の上から5番目にあります項目「市内事業所数」も2,223事業所となり、前回調査時より171事業所増加しております。こちらの項目は経済センサスの結果ですが、岡山県内で事業所・従業者数ともに増加している市は、岡山市と総社市のみでございます。そして15市の中で、総社市は事業所数の増加率・増加数とも1位、従業者数は増加率2位となっています。

その他、2ページ目にあります「宅地面積」、3ページ目にあります「障がい者千五百人雇用センターによる支援開始時点から1年後の職場定着率」、「一般就労移行者数」、「昭和地区等英語特区へ学区外から通園通学する幼児児童生徒数」といった、これまでの人口増加の要因にもなっている項目などが目標を達成しています。今後も、こういった総社流の施策をコツコツと進めるとともに、人口減少に歯止めをかけられるよう取り組んでまいりたいと思います。

説明は以上でございます。

#### ○議長

それでは全般について、いつものように皆さんの方から報告事項に対してのご意見、それからもし新たに提言等ございましたら、そういうことについてもお話いただきたいと思います。あと1時間弱ですので20名ぐらいおられるので、申し訳ありませんが、2分以内でお願いしてその後、市の方から一括して説明します。

また補足事項、そして皆さんの方から何かそれに対してのご意見があったらお聞きして、市の方に答えていただくという形をとりたいと思います。

発言については、皆様にお配りしています名簿順にまいりたいと思います。座っていただいている方の順番で行くようになっておりますので、よろしく申し上げます。なにとぞ時間の方のご協力をよろしく申し上げます。

それでは最初に風早さんからお願いいたします。

#### ○社会福祉協議会 風早会長

トップバッターなんですけど、2分以内にできるだけ頑張ります。

回答が70%は、すごいなということで、これだけ総合計画に関心を持ってくれてるということは評価しなきゃいけないなと思います。

そして満足度も高いということでもいいと思うんですが、私はこれに満足をしてはいけなと、満足度の内容がいろいろ程度によって違うと思いますから、その内容の動向の満足度をこれからもっと高めていくか、あるいは不満足度のどの部分をこれから総社市としてきちんとやっていくと人口が増えていくか、人口中心に私も考えてみたいと思うんですが、そういうことで必ずどんなに満足していても、新たな課題があるだろうということで、そこで足踏みをしては駄目だなというふうに思います。人口についてなんですけれども、本当に市長さん言われたように、もうこれからはすごく難しいな、だから今の人口を守りながら増やしていく、その計画を私はそれを核にした総社市の全体像のようなものを一回きちんと整理してみたらどうかという気がします。

人口も3つに分かれると思います。高齢者人口と生産人口と子ども人口でそれぞれをどういうふうに保っていき、増やしていくか。高齢者人口の場合で言えば、健康寿命を延ばして、できるだけ元気に長生きをしてもらう。

一番増やさなければならないのは、生産人口と、子ども人口です。

生産人口というのは、これから実際働いてくれて税金も払ってくれるわけですから、そこがどれだけ総社市に魅力を持って入ってきてくれるかということ。

そして子どもの方はもちろん結婚しやすい、産みやすい、育てやすい、そういうことで最初の資料①というのは、これは全てこれからの総社市の人口を増やしていこう、あるいは保っていこうという内容にマッチしていると思いますから、こうやって基本計画をローリングするというのは本当に他の自治体ではないと思うんですけれども、これをしっかりと受け止めてやっていただければいいかなと思うんです。

そういう中で私のところはいろんな福祉対策をやってきました。それをちょっとまとめて横断的にやってみたら、障がい者千人雇用からひきこもりを始めて今に至るまでは10年ちょっとあるんですよ。その間に人口が2,000人増えている。これは決して福祉対策だけで増えているとは言えません。

いろんな企業がどんどん入ってきて、雇用が進んだということもあると思います。ということで、これからもこういう全体的な部分を考えてみて、本当に住み続けたいためには、総社市がこれからどういう課題を具体的に見つけていくかということをお我々も一緒に考えたいと思います。ということで、例えば自然環境を維持していく、それからいろんなハード的なインフラ、道路、上下水道などを維持していく。今、福祉の対策とか、役所へ聞いてみたら本当に対応が良くてすぐ自分の課題が解

決できるように、我々は困っている人が困らないようにするのが、社協の仕事でもあるし市の仕事でもあるのかなと思います。そういうことを市の方がどんどん進めていこうと言われておる地域の中のいわゆるお互いの人間関係で、やっぱりここは住みやすいなという感覚を持っていただくことも大事かなと思います。

そういう点でやっぱり市外へのPRが大事なのかな、今、市の素晴らしいホームページを作っていると思うんですが、もう一回見直してみて、もっと具体的な内容がよくわかって、誰が見ても総社市はすごい。それなら行ってみようかというような部分をこれから作っていく必要があるのかなというふうに思っております。それからやっぱりUターンとかIターン、そういう人をどんどん受け入れていくということが大事。

最後に実は能登半島の一番先のところに珠洲市というところがあるんです。たまたまそこへ行ってその人と話をしていたら、そこは知らないですが、13,000人しかいないんですよ。男性が6,000人、女性が7,000人で、世帯数が大体6,000。本当に小さい市なんですけど、それだけにもものすごくいろんなことを掘り起こしております。魅力を発信していて、小さいから故に頑張っているということがあるので、そういうところも少しは参考になるホームページがあるかもわかりません。ということで少し省いた話になりましたが、以上で終わります。

#### ○観光協会 佐野会長

アンケートの方で「観光」の満足度が計55.3%あって数字的にはいいのかなと思っておりますけど、具体的にどういうところが良かったのかというのを知りたいというのが感想です。

そして記述式のところの、SNSで情報を発信していきたいというようなことがありますので、観光面からしたら、もっともっと総社の魅力を発信していきたいと思っております。

それと資料①の方で新たに追加された施策で具体的な数字を知りたいと思うんですが、ヤングケアラーが総社にどのぐらいいるのか、部活動をどのぐらいの全校生徒に対して何%がやっているのかということも、もしわかれば教えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

#### ○婦人協議会 勘藤副会長

初めてのことなので、よくわかりませんが、若い人が働きやすいような環境作りがあったらいいんじゃないかなと思います。

#### ○コミュニティ地域づくり協議会 難波会長

総社市コミュニティ地域づくり協議会からコミュニティのことを喋らせていただきたいと思います。

昨年末、多文化共生というところで、外国人の方とそれぞれのコミュニティ地域づくり協議会からと参加させていただきました。参加人数は、会場の都合で人数制限がありましたので、多くの意見を聞くことができていなかったと思うのですが、外国の方が、いいところっていうのは十分理解されておって、ただ交流ができる事業が少ない、できないっていうところで、今の外国人の方を支えるコミュニティ活動っていうのはもうコロナでなかなか制限を負い過ぎたっていうのが、そのときの印象でした。

ですから、これからも外国人の方を交えた多文化共生の事業、外で体を動かすだけじゃなくて、意見交換をするというのを中心にした事業を事務方として計画してくださっていますので、段々国籍の違いとか克服できるのかなと思っています。

#### ○校長会 高杉会長

まずは資料①についてですが、どの項目を見てもやはり子どもたち、あるいは学校、学びの関係のものが多いなと思っています。まさに時代背景に合った項目だなということを感じています。

項目に挙げていただけるということは、やはりそれだけ重要視してくださっているということで、これについてはありがたいなと思います。やっぱり幼稚園とか学校っていうのは、コミュニティのその地域の核だというふうに思います。

地域に子どもの声が届くというのは、やはり活気が出てきますし、魅力ある地域になっていくと思うんですけども、魅力ある学校づくり、あるいは活気ある学校をつくっていくために、もちろん学校も大切なんですけども、今は特区という形で他の地域から違う地域へということもあるんですけど、やっぱり学校を核にして、その地域が活気づいていく、そのためには、そこへ定住していただく。先ほどの人口増加にも関わるんですけど、それが大事かなと思います。

ですので、教育ということだけじゃなくて、誰もが安心して住みたくなる総社、学びたくなる総社はやっぱりセットかなというふうに感じました。

それから資料⑤の方です。クロス集計が非常に興味深く思いました。地域ごと、あるいは年代ごとにまとめてあり、これをどう地域に返していく、どう活かしていくかなということを感じました。

○総社吉備路商工会 栢原会長

今まで聞いていたのですが、万人に合う考えというのは、まずないと思います。

聞きたいのは資料⑦の目標値であります。この目標値は、どのようにして数値を出しているのか、達成率の低い分野については、今後どのような対策をしたいのかお聞きしたいと思います。

○議長

達成率の低い分野の改善ですか。

○総社吉備路商工会 栢原会長

今後の対応です。

○PTA連合協議会 中田会長

私はPTAからという保護者の立場として、保護者目線で思ったことをお伝えしようと思います。

昨今、共働き世帯がととも増え、核家族も増えております。そのときに待機児童等の対応はしてくださっているんですが、やはり先ほど高杉先生が言われていたように、地域で成長していったってほしいって思っている保護者の方も多いたと思いますので、こども園のような0歳1歳から預けられる、なおかつ小学校にもその地域で上がっていけるような施設をちょっとずつでも増やしていただいたり、預かりのようなシステムで保育園のようなシステムと幼稚園の融合ができるような対応していただいたら、お母様お父様が安心して働きに出ていけて、なおかつ子どもの成長も安心して見守られる。

小学校の学童もしてくださっているんですが、その対象年齢を少し上げるだけで、兄弟が預けられて、勤務もちょっと増えて、できる対応をすることで、住もうかなとか、もう1人産もうかなっていう方も増えていくんじゃないかなと私は思います。それが子育てしながら住みやすい街に繋がっていくのではないかなと、やはり物価も上がっていて、やっぱり働かないといけないという家族の方が多くいる感覚を持っているので、そこを充実できたら出生数も上がるのではないかな、しかも地元でどんどん成長していったって地域への思いもどんどん強くなる子どもが育っていくのではないかなとっております。

あと、人に優しい街だな、人に優しい対応ができてきている街だな、とも思いますので、子どもの心の支援も、不登校がちょっと増えているという事実もありますので、そのあたりも教員や専門の方でケアできたらいいなと思っております。

#### ○地域自立支援協議会 森田会長

地域自立支援協議会の方ですので、障がい者とかの立場の方から思ったことを簡単に述べさせていただきます。

それから調査に携わっていた方は大変だったんじゃないかなと、自分も仕事柄こういうことをしていることがあるんですけど、面倒で、本当に大変で、これをまとめて職員で作成するのは大変だと思います。ありがとうございます。

資料②の方なんですけど、5ページ目のところで総社市の愛着度とか、これからも総社市に住みたいというところでは、住みたいだとかどちらかといえば住みたいだとか前後しますが、愛着を感じているとそれからどちらかという愛着を感じているが8割ぐらい高い数値が出ています。12ページの障がい者、左側の下からですね、円グラフの障がい者・児福祉と書いてあると思いますけれど、そのところからいうと満足度から言うとどちらともいえないだとか、それから全く知らないという数値が高いなと思っています。総社といえば千人雇用から千五百人雇用になって福祉の方でも就労関係では非常に注目を浴びることが多いと思っています。

それから市の方にもよく優先調達でも仕事をいただいたりとかしているんですけど、何かこの数字を見ると自分も事業所の人間なのでまだまだ頑張らないといけないのかなということも考えますし、あと障がい者への就労と生活支援の充実と書いてあるんですけど、やっぱり働くことや作業するというのもそうですけど、生活面その辺についてどういうふうに思われているのかというのを知りたいと感じております。

#### 【会議後の補足】

市内の障がい者の事業所では、就労の事業所はA・Bを合わせると多数ありますが、生活介護の事業所は少ないです。行政からすると数値で表すことは難しいことかもしれませんが、生活介護の方の支援が充実してくると満足度も変わってくるのではないのでしょうか？

・市内の事業所の何のサービスを利用しているか、A・Bと生活介護

私の推測ですが、A・Bに所属している人は満足度が高いような気がしますが、生活介護は注目度が低いので満足度はあまり感じていないような気がします。

○晴れの国岡山西農業協同組合 山本理事

それでは私は、晴れの国岡山農業協同組合ということで、農協の立場でお話をさせていただきます。

今回、誰もが安心して働きたくなるということで、農林業という中で農業の推進については、40.5%が満足しているというようなことになっておりますが、逆に言うと6割の人は満足はしていないというようなことであります。

非常に今農業の立場というのは難しい環境にあるわけなんですけど、そうした中で資料④の8ページにありますように、農林業であえて言えば、農業を続けていきたいが、農機具などお金がかかるとか先祖から受け継いだ土地を手放すのは残念だがそうせざるを得ないようになってくると、できない人、やろうとする人を繋ぐ仕組みがあればいいなというようなことも書いてありますし、相談できるところもないというようなことで、非常に農協としてもそういったことをしっかりと対応する必要があるというふうに思っておりますので、行政と農協と農家と一緒に地帯の農業を守るということをしかりやっていく必要があるというふうに思っております。

人口の増加というようなことでは、農林業の中の新規就農者が年々増えていっておるというようなことで、特にこの総社では果樹とか野菜とか、そういう人も多いんですけど、そういった中で年々、新規の就農者、果樹の方が多いというわけなんですけど、増えてはきております。1人来れば、奥さんと一緒に来るとか、また子どもさんもついてくるし、人口が増えるとかそういったことになると思うので、ぜひ新規就農者が来やすい行政の支援をいただければというふうに思っております。

そういった若い人の農業を応援するというので、市長さんもSNSとかテレビに出ていただいて、総社市の農業をPRしていただいておりますし、農協としても笑味ちゃん天気予報っていうのを皆さん知っておられると思いますが、笑味ちゃん天気予報でも農業のことをPRをさせていただいておるというようなことであります。

非常に今の農業の置かれている環境はなかなか厳しい訳なんですけど、先ほども申しましたが、行政と農家と農協と一緒に頑張っていきたいというふうに思っております。

○子ども・子育て会議 近藤会長

今回クロス集計ができたので良かったなと思っております。以前よりもより分析ができるような形になっているかなと思っております。ただクロス集計の場合は、帯

グラフのほうが格差がわかりやすいので、円グラフじゃない方がいいかなと思いました。

また外国人の方への調査もされていたので、本当によかったなと思っております。

子ども分野のことでお伝えしますと、改めて国の方では小学校6年生まで学童保育をしましょうと言っているんですが、総社は基本的には3年生までとなっているので、6年生まで延長するような形で今後、考えていかないといけないかなと思いました。

それから先ほどもご意見がございましたが、3歳以上の子どもに関しては総社市の場合は幼稚園を充実させ、幼稚園と預かり保育の組み合わせでこども園のような機能を持たせて子どもたちを見るということを推進しております、今回給食ができたことが本当に良かったし、今後もこれで幼稚園の充実が図れるかなと思っております。

ただ0歳から2歳未満のところの保育をどうするかという問題も残っているかなと思っております。

それから不登校の子どもも増えていたり、子どもの貧困の問題とかヤングケアラーの問題とかいろいろ子どもの抱える課題が山積しているわけですが、学術的に自然活動とか文化的活動支援をして、子どもたちが自然や文化に触れるということが、すごくいい影響、いい結果、いい大人になるという結果が出ております。

例えば、大原美術館ってものすごい大きな文化的資源だと思うんですが、総社市の子どもたちが、私立の美術館ではありますが、大原美術館に1回は全員の子が行けるようにするとか、お金かかるんですけども、そういった美術館とかあるいは博物館に行くような支援も活性化できたらいいんじゃないかなと思っております。

#### ○シルバー人材センター 岡理事長

先ほども出ておりますけど、クロス分析は非常にいい集計というふうに思っております。それから分析をされて、どうやっていくかということでございます。

例えば、先ほど住みたい理由の中で、「買い物や市内の移動など日常生活が便利だから」が52%、でも住みにくい理由で「買い物や市内の移動など日常生活が不便だから」が38.9%なんですけど、これはどういう年代で、どういう地区の方がこういう回答であるとかというのがよりわかってくるのかなと思いますので、これ非常にいいことだなと思っております。

それからもう一点は、観光の項目になっているかなと思うんですけど、先ほどの観光協会の方がおっしゃられた観光に関する記述が非常に少ないと思っております。今年の夏に初めてデスティネーションキャンペーンでバスを走らせておられました

けど、そういう面で、せっかくいいものがあるわけですから、これはどんどん使って発信していくべきだと思っています。内部の市民だけじゃなくて観光業者、あるいは外部のところにも行って、聞き取りをされた方がいいかなと思っています。

最後にシルバーの方から一言、言わせてもらいます。

今、空き家が商店街に非常に多くございます。そんな中でまた空き家問題をどうしていくか。商店街や郊外の空き家調査をしていただければなと思っています。

#### ○文化協会 樋口会長

アンケートをとっておられる中で、各項目に全く知らないというのが多い。要するに市の施策がなされていても全く知らないというのは、施策の外におられるわけですから、残念なことだなと思います。老老介護で車椅子のお年寄りが海の中へ投げ込まれて、何とかならないのかなと思うのですが、これもせっかく行われている施策が半分は全く知らない。一番それが届いてほしいところへ届いてないということですね。全く知らないというアンケートの結果に対して、私はかなり強い覚悟を持って徹底するような方策を考えてほしいとこの資料を見せてもらいながら思いました。

それから市長さんも言われていますが、これから人口減少というのは止まることができないのかもしれないけど、もう既に過疎化している総社市内の地区に教育特区という施策をして、昭和地区へ駅前の方の児童生徒の人が通っているという現実があって、今はもう80人近くが通っていることは、いいことだと思うんですが、一端やり始めた英語教育の実施を削除するとかいう掲げた旗を簡単におろしてもらいたくない。やるなら徹底してやってほしい。一時だけでやらないって言っても子どもは連続しておるわけですから、あるときから自分の目当てがなくなるんです。そういう教育は避けてほしいなと思います。

それから、あくまでも過疎化ということや人口減少ですから、どうしても経済的なことを考えると思いますが、児童、生徒の立場になって子どもを保障するんですから、子育て王国ですから経済的なこともあるでしょうけど、昔から教育というものを軽んずるといのは社会が滅びる元ですから、特区なんかをしているそういうことはとても素晴らしいと思うんですが、子どもの立場、それから教育特区にお世話になった児童生徒のその後の効果、教育効果のどういう特区に通った子どもの追跡調査、そういうこともやっていただいて、特区の良さや魅力を確固たるものにしてほしいなと思います。

雪舟生誕地公園で生誕祭というお祭りが行われます。文化効果はございませんけれども、お手伝いをするようにしておりますが、どうぞ公園を作ったということで観光の面と、そこにある雪舟さんだけでなく、先人というものを顕彰するということも同時に進めていただけたらなと思っています。

#### ○体育協会 荒木会長

資料③のスポーツ文化、生涯学習という項目につきまして、スポーツのできる施設、公園が足りないという記述がありますが、決して数からしても面積からしても少ないということはないと思うんですが、ただその内容が河川敷に大きなスポーツ広場がありますが、ただここには水を飲むところも井戸もないですし、トイレに問題がある。

スポーツ広場の中で吉備路アリーナの中にある多目的広場がありまして、皆さん感じていると思うんですが、これがもう非常に雨が降ったときの水はけが極めて悪いです。土そのものが、少なくともグラウンドに使うような粘質の土ではなく水が抜けないというようなことで、施設が足りないと話に結びついているのかなと思います。多目的広場の改修をぜひお願いしたいと思ってお話させていただきました。

#### ○青年会議所 三海理事長

資料の④と⑤を見させていただいて、子育てというところで他の市の方からよく言われるのがやはり子育て王国というところで、人口も増えているのかなとよく声をかけられることがあるんですけど、先ほど市長のご挨拶にあったように人口は若干減少の方に転じているということで、この資料を見る限りやはりこの子育て王国とうたっている割には子育てに関しての満足度も低いのかなと思うところがあったのと、資料⑤に関しましては全体のアンケートの中で特に若い世代の回答の中で、全く知らないという項目が多く見受けられるので、こういった若い世代にも市政にもう少し興味を持っていただけるような取り組みが必要なのではないかなと感じました。

#### ○吉備信用金庫 清水理事長

先ほど市長のお話にもありましたように、ここ数年の人口が増えてきましたけれども足元で69,904人から減ってきているということで、この人口の維持、増加こそがやはり総社市の力でありまして、あらゆる面において総社市の活性化、発展に繋がるものだというふうに思っております。

一方ですね、総社市の事業者数っていうのが平成28年の2,000から足元で2,200になっているということで増えているんです。これは零細企業、中小零細企業で零細の方、個人事業主が増えているものと思われます。

特に、若い方の飲食やサービスが増えてるんじゃないかと思っております。私ども吉備信用金庫のデータでも、総社市で創業したいという若者が非常に増えてきている。

1年前に私どもがS-スタという移住創業サポートセンターというものを開設しましたがけれども、総社市と商工会議所とタイアップしてやっております。1年半で約60件の創業相談があります。創業を軸にして総社市に移り住んでもらうということで、地域の活性化に間違いなく有効であると思っております。しかし、この開業していく場所がない、空き家がないという現実であります。

我々としてはS-スタという移住創業のサポートセンター、特に不動産情報、空き家情報を関連団体に共有いたしまして、企業や移住を通して人口を増やす戦略に注目をしております。総社市が持つ空き家情報をより有効に活用できるスキームを三位一体で整理して、ニーズに応じていきたいと考えております。その上で空き家の情報の活用を、総社市としてはどのようにお考えなのかお聞かせいただきたい。

それからもう一つは、この資料にも掲載されておりますけれども、保育園に入りにくい、娘も保育園を待っている。こういうことがあります。

個人的にですけれども、私も孫たちが来年の4月に笠岡から総社市に引越しということになっているのですが、保育園に入れません。こういう現実があります。聞くところによると実際は100人以上の待機児童がいると聞いております。

先ほどもありましたけれど、子育て王国と言いながらもその入り口が非常に厳しい現実があるということで、幼稚園の給食とか延長ということもさることながら、それだけではそのニーズに対応できないんじゃないかなと思います。

そういうことで新しい保育園を作るというお考えがあるのかどうか、そしてその待機児童に関するKPIがどうなのか、お持ちなのか、それに対する具体策はあるのかということをお聞かせいただきたいというふうに思います。

○日本労働組合総連合会 岡山県連合会総社地域連絡会 宮田代表

何度かこの会議に出させていただいているんですけど、資料が徐々にかなり充実してきているなと感じます。あと分析の結果をどう活かしていくか。何人かがおっしゃっていましたが、そこが重要になってくるんじゃないかなと思います。アンケートの中で、どちらかといえば不満とか不満という少数の方の不満の理由を確

認しながら、そこをいかにして満足しているに持っていけるようにするのが、今後の課題なのかなと思います。

あと働いている立場からですと、やはり人口減少というところで、我々ウイングバレイの企業で働いている方が多いんですけど、やはり新入社員が少なくなってきて、大学卒の方の入社がなかなかないというところで、若者がなかなか入ってこないというところなんです。最初おっしゃられたと思うんですけど元気に働くところで、

70歳定年というところも視野に入ってきます。そのため中高年が長く働いていくための健康作りなど、そういった部分の施策について市としても何か考えていっていただければなというふうに思っております。

#### ○山陽新聞社倉敷本社 佐々木常務取締役倉敷本社代表

初めて総社市の市民満足度調査を見せていただいたところ、全体的なイメージはやっぱりこの街は住みやすいんだなというイメージを受けました。非常にいろんなところで満足度も高いし、関心についても、いろんなところの度合いも高いし、本当に暮らしやすいんだなと思います。回答からも文化が残っていて良いところだなとつくづく思いました。

これを読ませていただきましたところ、先ほど樋口会長がおっしゃいましたところですけど、例えば、誰もが安心して集いたくなる総社というのは、市民参加に力を入れているところだと思います。市民参加というのは、住民自治の原点なので市の大きな政策の一つとして追及されているのは、非常に敬意を示したいと思うところです。

ただ、今様々な新しい課題がでてきますよね。例えばLGBTや多文化共生などまだまだ理解しづらいところもあるので、そこはやはり広報をパブリックリレーションも含めて攻めていかないといけないと思います。それからメディアプランニングなどのアンバサダーを進められたらいいんじゃないのかなと思います。

それから市役所に特に力を入れてほしい政策という項目を見ると、暮らしとかが一番高いんですけど雇用、企業誘致、商工業っていうのが6%で4番目ということですが、これは択一式で一つしか回答できないからこんな数字だったんでしょうけど、本当はもっとニーズが高いんじゃないかなと思います。

総社市は岡山と倉敷から車で30分ほどで通勤できるところにあるので、非常に良い環境だなと思うんですけど、働き方とか働く場所とか、時代の変化で様々な形態が現れていますよね。副業やリモートワークなども出てきました。

それから社会の様々な課題をビジネスで解決しようというソーシャルビジネスが非常に高い関心を示されているので、その辺もやはりこういった雇用政策の企業支援の中に組み込まれていかれたらいいんじゃないかなと思いました。

○商工会議所 清水会頭

ありがとうございます。

私からも商工会議所としまして答えさせていただきます。

パンワールドというものをしているんですけども、ここ5年でかなり参加して新しくパンを作っている方が増えたりとか、事業者が増えたりとか、売り上げも3億5,000万円ほど増えました。

農業の関係で、いろんな分野で総社で仕事を始めたいという若い人が増えることも必要ではないかというふうに思います。

それでは一括して事務局の方から説明願います。

○総合政策部長

総合政策部長の脇でございます。

私の方からお答えをさせていただきたいと思います。

まず風早会長からいろいろご意見をいただいたところでございます。中でも具体の課題をどう見つけるかが大事である、困っている人が困らないようにすることが大事である。というご意見がございまして、そのご意見の通りであると考えております。1件、1件、お一人、お一人市民の方と向き合ってどういう課題を抱えておられるのかということを解きほぐしていく、そのことが一人一人の住みやすさに繋がるものと思っておりますので、引き続きご協力いただければと思います。

また全体の計画につきましては、今回、第2次総合計画後期基本計画の2年目でございますけれども、ゆくゆくはもうそろそろ第3次が見えてくるところでございます。このことにつきましても皆様にまたご相談をさせていただきまして、次のビジョンというものをどうするかということにつきましてご相談させていただければと思います。

次に佐野会長からは、観光の満足度についてどういうところが良かったのかを知りたいというご質問と、ヤングケアラーの人数、部活動が何%実施されているのか、ということのご質問がございました。

ヤングケアラーの人数につきましては、すみませんがこちらの事務局では今は、数値を持ち合わせておりませんので、部活動の加入率だけお答えをさせていただきます。部活動の加入率は85.0%でございます。

またどういうところが具体的に良かったのかということなんですけれども、全員がこの満足度調査に対してこういうところが良かったと具体的に答える形になっていないので、なかなかここですということがお示ししにくいんですけれども、例えば記述式のところだと、福山や鬼ノ城に関する記述、あとは私、県立大学で講義もさせていただいているんですけれども、学生の方にどういうところ総社市をおすすめしますかと聞いてみると、例えば鬼ノ城や桃太郎伝説について意外に思われる学生の方も多かったのです、そういうところが観光地として向いているのかな、気になることが多いのかなと思います。

次に勘藤副会長からは、働きやすい環境があったらいいということがございましたが、その通りでございます。働きやすさと住みやすさは、一緒のことだと思っておりますので、こちらにつきましても引き続き施策を進めてまいりたいと思います。

また難波会長からは、段々と国籍の違いを克服できると思うという温かいエールをいただきました。こちらにつきましても多文化共生を総社市としても進めているところでございます。引き続きご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

続きまして高杉会長から、住みたい総社と学びたい総社というのはセットである、クロス集計につきましてもどう地域に生かすのかが重要というご意見をいただいております。こちらにつきましても全くその通りでございます、クロス集計をとただけではなく、その結果をどう生かしていくのかということに関係部と一緒に考えてまいりたいと思います。

次に栢原会長の方から、KPIの目標値の出し方と、達成率が低いところはどうかとご質問をいただいております。目標値につきましては現状に関しまして、この程度あったらいいという理想値を考えて出しているところがほとんどだと思います。今達成率が低いところなんですけれども、おそらくは我々が把握している限り、とても達成率が低いところというのは、多くがコロナ関係のものでございます。

ただ、コロナだから低くていいというわけではございませんので、これを少しでも現状を踏まえて上げるかということを考えていくことが必要でございます。具体的にどうするのかというのは、その時々とその施策ごとに異なるものと考えております。その施策ごとにどうやって上げていくのかを今後、真剣に考えてまいりたいと思っております。

次に中田会長の方から、保育園と小学校の融合のお話についてのご提案をいただいたということ、心の支援に関してもというご要望をいただきました。保育園と小学校の融合につきましては、今、具体的に何か進んでいるかと言われればそういったものはないというふうに認識をしているんですけども、お互いがいただいたご意見を踏まえまして、また何ができるかということを考えていくというふうに考えております。

また心の支援につきましても大変重要なことだと思いますので、こちらにつきましても、いただいたご意見を踏まえまして、何ができるかということを考えてまいりたいと思います。

次に森田会長の方からは、障がい者施策の生活面についてどう思っているのか知りたいというご意見をいただいております。こちらにつきましても質問の選択肢の中に個別、具体的にこういったところがという質問がなかったので、そういうお答えがあったわけではないんですけども、例えば資料④の2ページ目などに障がい者の方のトイレの利用の話などございまして、完全に障がい者の方が市内で何も不自由を感じなく暮らしているという状況ではないのだと思います。今回いただいた貴重なご意見などを丁寧に拾いながら、何ができるかということを考えてまいりたいと思います。

続きまして山本理事から、新規就農がしやすい仕組みをとということでご意見をいただいております。新規就農に関しましては、今年の法改正で農地取得の下限面積が撤廃をされることになるという方針で認識をしております。我々の空き家対策においても、農地付き空き家を求めておられる方も大変多くおられまして、全く自由に農地の売買ができるというわけではないんですけども、少しそのハードルが下がったということで、我々もぜひその新規就農者や農地付き空き家を求めている方々に向けて、いろいろとアピールを考えてまいりたいと思います。

続きまして近藤副会長から、帯グラフのほうがいいとのご意見をいただきました。来年以降そのようにしたいと思います。ありがとうございます。また、学童の延長のお話、0から2歳児の対応の話、文化資産の生かし方のお話、文化活動を支援するべきではないかというお話をいただいております。

学童に関しましては今、担当部局の方でおそらくはいろんなご要望にお応えをすべく対応について検討中のことだと思います。0から2歳児についてどうするかということに関しては、今具体的に私の方でお答えがあるわけではなく申し訳ないところでございます。

文化資産の活かし方，文化教育に関しましては，おそらく学校の方でいろいろと検討されているところだと思うんですけども，大原美術館という素晴らしい資源もございますのでそちらの確認については担当部の方にお伝えをしたいと思います。ありがとうございます。

続きまして岡理事長から，観光に関する外部への発信について，外部の方に聞き取りをしたら良いのではないかということ，また空き家管理について調査をしてほしいというご意見をいただいております。観光の外部への聞き取りに関しては，担当部にお伝えしてまいります。空き家関係につきましては，今私どもの方で空き家の実態調査を進めておりまして，これは市内全域を対象とした大規模なものでございます。こちらで空き家の数というものをしっかり捕捉をして，利活用を進めてまいりますと考えております。

続きまして樋口会長からは，満足度調査で全く知らないというところは覚悟を持って徹底しなければいけないというお話，あとは資料①の教育特区が削られることについて覚悟がないのではないかというお話，特区を知ってもらって魅力を確認するものにしたらかどうか，また先人を顕彰するということを進めてはどうかというお話をいただいたところでございます。

全く知らないということに関しましては，おっしゃる通りでございます。何か困難を抱えたときにまずは市にお問い合わせをいただくと，総社市なら何とかしてくれると思っていただけることが大事なのかなと考えております。

政策に関しまして，広報紙などでお届けをする，後は総社市がやっているSNSでお届けをする，そういったことも必要ですし，またお困りになったときにとりあえず総社市に相談しようと思っていただけるような関係づくりも重要と考えております。

また教育特区に関しては，私共の方では英語関係の旗を下ろすということは考えておりません。人口減少地域の中で教育の充実をするということにまとめたという意識でいたのですが，英語教育の旗を降ろすんじゃないかとか，そういうふうに思われることもあるということは今わかりましたので，どのような書きぶりが良いかということとはまた検討してまいりたいと思います。

#### ○文化協会 樋口会長

その部分について私が聞いたのは，音楽とか体育も増やすというような方向だというふうに聞いたんですが，それでよろしいんでしょうか？

## ○総合政策部長

英語だけではなくて、体育と音楽も特区でやっているところでございます。こちらにつきまして今は特区のみとして項目を立てておったんですけれども、減少地域の教育の魅力化ということで一本化するという趣旨でまとめたものでございます。なので、例えば、英語教育をはじめ教育特区による魅力ある施策の充実、実践を検討しているところでございます。

また特区の実態調査につきましても担当の方に可能かどうか、もし可能であればしていただきたいということでお伝えをしたいと思います。ありがとうございます。補足ではございますけれども、全国参考値との比較で教育特区を受けた子の方が例えば英語の成績がいいというような結果は出ていると聞いております。

続きまして荒木会長からは、多目的広場の設備の話について伺ったところでございます。そちらにつきましては、今この段階で何か言えることがあるわけではないので、そのようなご意見があったということ、担当部の方にお伝えをさせていただきます。

三海理事長からは、政策について全く知らないというのが若い世代に多いということについて、問題提起をいただいております。こちらにつきましては、我々この夏にInstagramの開設をいたしまして発信を始めたところでございます。Instagramで全てが解決するわけではございませんが、そういったことを取っ掛かりとして、若い世代に総社市がいろんなことをやっているんだよ、子育てにも力を入れているんだよということ、PRしてまいりたいと思っております。

また清水理事長の方からもいくつかご要望いただいておりますが、不動産情報をS-スタで有効に活用できるスキームのお話ですとか空き家活用をどう考えるかというお話、新保育園をつくる考えがあるかというお話と待機児童のKPIを持っているというお話があったかと思えます。

まず、空き家情報と空き家活用の話なんですけれども、空き家活動は先ほどお答えさせていただいた中にもあったんですけれども、今現在調査をかけているところでございます。おそらくはそれでどういったものがどこにあるのかということがわかるかと思えます。

情報共有につきましても、持ち主様のご希望もございまして、あまり外に言ってほしくない場合もあると聞いております。ただ、おっしゃることもごもっともだと思っております。開業も支援していただきたい、移住もしていただきたいところがございますので、どういったことが可能かということをもたご相談させていただければと思えます。

待機児童のKPIにつきましては我々の方で持ち合わせておりません。申し訳ございません。新保育園につきましても我々の方でそういう事業が進んでいるという話は持っておりません。すみません。

次に宮田代表からの不満という理由を確認しつつ、満足に持っていくことが重要であるということ、あとは中高年が長く働く施策を市としても考えていただきたいということについてご意見をいただきました。

不満の理由というのが書いていただいているものから我々も推察するしかないんですけども、記述式でいろいろとご意見をいただいているところでございますので、そういったところから一つ一つ紐解いていきたいと考えております。

また、中高年の長く働く施策ということなんですけれども、まずは健康が大事だと思ひまして、総社市では歩得商品券事業をやっているところでございます。そういったところから健康づくりを進めてまいりたいと思ひております。

続きまして佐々木取締役からのご意見をいただいております、メディアプランニングの話、あとは企業振興にソーシャルビジネスを組み込んで、ということでご意見をいただきました。

メディアプランニングにつきましては、我々今勉強しているところでございまして、SNSをはじめ最近情報は氾濫する中で、どうやって届けるのかというところに苦勞しているところでもございます。またご支援をいただきながら我々のメディアプランニングを進めていきたいと考えております。

雇用施策につきましては、新しい動きとしてソーシャルビジネスという動きがあるということをお我々としても認識をしております。こちらにつきましてソーシャルビジネスをどんどん進めていっていただきたいと思ひますので、どういうやり方が効果的であるのかということをお勉強してまいりたいと思ひております。

清水会長からパンワールドのお話をいただきました。大学生と話をして、総社市といえばパンワールドというような方が結構おられます。ということで、パンワールドというブランディングにはかなり成功していると考えております。我々としても協力をしてもらいながら、若い人の働く場所ということをお考えてまいりたいと思ひます。以上でございます。

#### ○議長

ただいまお答えいただきましたが、皆様の方から何かご意見はございますでしょうか。お聞きした中で漏れている等ありましたら、ご発言いただければと思ひます。

【発言なし】

事務局に進行を戻します。

#### ○事務局

本日は貴重なご意見をいただきまして大変ありがとうございました。

今後の予定に関しまして、簡単にご説明させていただきます。

本日お配りさせていただいている資料、審議会の事項については、総務生活委員会に報告をさせていただきます。

それでは、最後に市長からお話をいただいて閉会とさせていただきます。

#### ○市長

どうもすみませんでした。たくさん意見をいただいて、途中で公務があったんで抜けて今戻ってまいりましたが、脇部長の答弁を聞いていたら、大体どういう質問だったのかというのは見当がつかしました。私の方から最初に人口が減っているんだと何をやるんだ、何をやれるんだと。それに対して、やっぱり私達は具体的な打つ術を持たなければいけない、検討しています、考えていますでは駄目だ。

だからやっていこうということを考えて、この市民満足度調査の中で一番、総社市民が不満に思っているところは何ですかといたら間違いなく医療です。死にそうになったときどうするんですかという問いにどう答えるかということです。

今日消防長が来ています。あと、市議会から3人の議員の方々もおいででございます。

今救急車の搬送で、市外に搬送希望していたり状況に応じて市外に搬送しているのが救急車の全搬送数のうち77%が市外です。これで住みやすい街だと言えるか、安心して住める総社市だと言えますか。医療問題に終止符を打たなければならない。

ご承知のように、私が初当選したとき、相手が負けた理由が病院問題です。当時の現役の市長さんが、今大黒天があるところに市民病院を作るという公約を言っていました。私は民間病院を助成した方がいいとそういうことを言いながら、民間病院に助成をして医療レベルを上げていく。市民病院を作って100億近くもかかった市民病院で年間赤字が4億も5億も出て財政が、総社市がそれでもつのか。だったら民間を助成した方がいいんだということで私が当選してきたわけでありまして。そのときの市民の総意はそこにあったと思います。

しかし、これまで医療界にメスを入れることなく搬送率77%が市外というのは、私の不徳の致すところでありまして。したがって、先の議会で提出いたしましたけれども、民間の病院が3つあります。あとは診療所です。その3つの病院を助成する

ことによって、医療機器、医療レベル、第二次救急システムなどを強化して、それによって安心した医療体制を得ることを目的に民間の病院を助成したいと思います。

長野病院、薬師寺慈恵病院、森下病院がありますけれども、今のところそれに手を挙げてくれる、あるいは挙げてくれそうな病院がその内2つあります。ここに強化策を注入することによって、市外に搬送する率を下げても市内でまかなえる体制というものをつくっていきたいと思うんです。この医療に対する不安、不満というものを下げていくためには、相当な資金がかかります。総合病院をつくるわけにはいきませんし、年間の5億、4億の赤字を毎年補填するわけにもいかず、1病院MAX10億を限度として、私達がこういうシステムを備えてもらいたいということを病院にお願いをして参ったところもあります。その病院がどういう診療科目ができ、どういうMRIであるとかCTであるとか、市民を守るための医療機器をどこまで上げていけるかということに点数をつけながら助成金額を決めていくということをやりたいと思います。

願わくば、私はそのことによって、市外の搬送率を50%以下に下げても市内で完結するというのを、少なくとも住み続けたいまちを標榜し人口を増やすということを目指するならば医療の強化というのがまず避けて通れない道と判断いたしましたので、議会に提出をしてそれに議決をいただいたところであります。

これから実行段階に入りますけれども、限りなく医療レベルの向上について総社市として上げていく努力をしていきたいというふうに思っております。

様々なテーマがこれから出てくると思いますが、できることはバンバンやっていますから。できることはやっていく。実行に変えていく。今の人口が減り始めたものをせき止めていくだけの瞬発力というのを持たなければいけないと思っておりますので、前向きに頑張っていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### ○事務局

ありがとうございました。

それでは閉会にあたりまして、近藤副会長からご挨拶をお願いいたします。

#### ○近藤副会長

今日は、お忙しい中貴重なご意見をたくさん賜りまして誠にありがとうございました。

今、市長様がおっしゃったように総社市の市民のニーズ調査によると、いつも医療と福祉のニーズが一番なんです。こうした中、医療体制が整うということで、とても心強く思っております。私も総社市民としてそう思っております。その上で今日の皆様のお話を聞いていると、新しい課題がたくさん出ているんだなと思っております。

例えば、空き家支援を含めた新規就農者や起業される方への支援だとか、あるいはもっともっと子育て支援を充実させていかないといけないだとか、あるいは多様な人々に対する支援、さらには本当に良い観光資源を持っている総社ですので、この観光資源を活かしていく必要があるとか、高度情報化社会の中でメディアの活用をもっとしていったらいいなどの様々なご意見をいただきました。

コロナ後でウクライナの戦争なんかもあって経済的にも苦しい状況ではありますけれども、市民の方々が文化的に豊かな暮らしができるということを求めてこの会議が進んでいったらいいんじゃないかと個人的には思っております。

今日はお忙しい中誠にありがとうございました。

引き続き、どうぞよろしく願いたします。